

以上の主旨に賛同される方の入會、各方面の参加を望んでいる。

昭和二十二年七月十四日

ユネスコ協力會

◎ ユネスコ協力會の設立經過

昨年十一月、パリのソルボンヌ大學で開催された第一回ユネスコ總會の様子は、當時我が國の主要新聞に掲載され、教育科學文化によつて世界の恆久平和の地面に乗り出した歴史的な動きとして、國際文化あるいは世界平和に關心を有する人々の間に大きなショックを與えた。仙臺に於ても、このユネスコを理解せんとする努力が東北大學、終戦連絡東北事務局等の一部の人々の間に起り始め、各種の基礎資料の蒐集と研究が個々に始められた。理解が進むにつれて、この人達の間には、現在の我が國が平和な文化國家を建設するに當つてユネスコの思想を理解すること、そして更にユネスコ精神の理解を促進するためには將來設立を豫定される日本國內委員會に協力する國民に根を下した國民運動の必要が痛感されるに至つた。

ここに於てユネスコ及びその思想を廣く一般に理解さ

せるとともにその事業に積極的に協力するためにまとまつた團體を結成することの必要が感ぜられるに至り、大學、終戦、放送、新聞關係等の有志は一體となつて「ユネスコ協力會」の構想の下にその設立に乗り出すことになつた。この機運は佐武東北大總長、大江終戦連絡東北事務局長の積極的な支持と理解を得て、更に一段と進展した。六月二十九日に土居光知準備委員長の下に第一回の準備委員會を開催して以來、四回の準備委員會に於て、協力會規約草案の審議、事業計畫案、聲明案及びパリ本部宛發會通知案などの検討を矢繼早に行ひ、七月十九日「ユネスコ協力會」の發會講演會を行うことに決まつた。この間上田準備委員は上京して各方面と連絡し機運を打診したところ、多大な賛同と支持を得、發會講演會の御席立も出來で、十九日、全日本に魁けて學都仙臺に於てユネスコ協力會の發會が講演會を兼ねて行われるに至つたのである。

ユネスコ協力會設立準備委員 (イロハ順)

- | | | |
|------|------|------|
| 西村貞二 | 金倉英一 | 小谷鶴次 |
| 細谷恒夫 | 村岡 勇 | 安積 宏 |
| 土居光知 | 村田 潔 | 佐藤 彰 |
| 大川 茂 | 上田康一 | 木村龜二 |
| 生出幸夫 | 桑原武夫 | 榛葉英治 |